



今年の石州街道はこれで終わりで、いよいよあと3回となった。本文にも書いているように、石州街道からは少しばかり離れてしまうが、ここ船平山からの徳佐盆地の眺めは是非お勧めしておきたいので採り上げてみた。こうして見降ろしてみると、かつては大きな湖であったという眼下の平地は、思った以上に広い。この平地をじっと見つめて田圃を湖面に置いて想像してみると、本当に湖が見えてきそうで、良い場所に案内してもらったと思った。手前のススキも美しく輝いていた。

モノクロ写真は、今から60年以上も前の1962年2月の船平山の風景で、大学の先先輩N氏にお借りしたものである。背後には雪に覆われた十種ヶ峰がそびえている。なかなかの眺めである。ここは駅から歩いて行けるということで、手頃なグレンデだったようだ。私の在学時にも、まだグレンデとしての機能を持っていたはずだが、私が初めてスキーをしたのは、ここではなく背後の十種ヶ峰であり、それ以降は大山へと移り、社会人となってからは苗場に2、3回行った記憶がある。しかし、北海道やカナダにまで出掛けていた兄とは違って、それ以上のめり込むことはなかった。ただ初めてスキー板をコントロール出来て滑走した時の快感はいまでも良く覚えている。背後の十種ヶ峰にしろ、お隣の広島県北部のスキー場にしても、昨今の地球温暖化の影響のため積雪量が少なく、シーズンには人工降雪機に頼ると聞く。何せ世界中の高山の氷河が著しく後退し、両極もそれと同じと言うから、化石燃料を復活させると息巻く某次期大統領には？でしかない。(2024.12.16 記)

イラストでたどる  
石州街道

33

船平山から

船平山は石州街道の舞台としては相応しくないかも知れないが、気軽に車で到達できる場所であり、展望台からの徳佐盆地の眺めも素晴らしいので是非紹介しておきたい。実は石州街道ウォークを終えた後にガイドさんから勧められて立ち寄った場所なのである。船平山は以前は手軽なスキー場で、若者たちは山口線船平駅からスキーを担いでゲレンデまで歩いて行っていた。今ではスキーと言えは十種ヶ峰になる。この船平山の楽しみは見事な展望の他にも5月のレンゲツツジ、7月からのユウスゲがある。ただし、筆者はまだこの二つもお目にかかっていない。ここを訪れたのは10月のことで、イラストのようにススキが辺り一面に広がっていた。

文・イラストII  
古谷眞之助

